

「わが家の避難行動マニュアル」の書き方について

小田原市では「わが家の避難行動マニュアル」を作成し、全戸配布いたしました。これは、災害が発生した時に、住民の皆様が適切な行動をとれるようにするためのものです。

以前配布しました、防災マップや洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ等を参照しながら、自分が実際に避難する場所などを記入することで、災害発生時の行動を確認してください。

防災マップ等が、お手元に無い方は、防災マップ等の写し(抜粋)を添付いたしましたのでご利用ください。

防災マップ等は市のホームページでも公開しています。

作成した「わが家の避難行動マニュアル」は、冷蔵庫や玄関などに貼ったりして、いつも確認できるようにしましょう。

各種マップはホームページでも確認できます。

小田原市ホームページから「いざというときに」をクリック

- 防災マップ等
 - 小田原市防災マップ
 - 小田原市洪水ハザードマップ
 - 小田原市土砂災害ハザードマップ
 - 小田原市海抜マップ(全地域)
- 防災関係資料
 - 小田原市海抜マップ(全地域)
 - 箱根山(大涌谷)火山災害対応マニュアル策定
 - 災害時要配慮者支援マニュアル

● 記入の仕方 <地震編>

ステップ①

津波の危険性について確認をする。

ステップ②

地震が発生した場合の避難の流れを確認し、避難先を決めておく。

空白部分に自分が避難する一時避難場所を記入しましょう。
一時避難場所は地域ごとに違うので、自治会やご近所同士で確認しましょう。

わが家の避難行動マニュアル <地震編> 保存版

地震発生 → 一時避難場所へ避難 → 地域で安否確認 → 帰宅する

津波の危険性確認 → 避難先を決める

一時避難場所: ○○公園

一時避難場所へ避難した後は、自治会(自主防災組織)が主体となり、人員点呼/状況把握、初期消火、救出救助、応急救護などの活動が行われます。

自宅に大きな被害なし → 自宅の状況は? → 自宅の被害大(生活ができない) → 広域避難所

自宅の状況は? → 自宅の被害大(生活ができない) → 広域避難所

避難先: ○○ビル

安全が確認できるまで待機

安全が確認できるまでは移動は避けましょう。

避難先: ○○小学校

わたしの住んでいる場所の海拔は、**海抜 ○○m**です。

わたしの住んでいる地域には、津波による浸水予測が **ある** / **ない** どうかを必ず確認してください。

予測される最大浸水深は、**○○m** (最大浸水深を記入してください)

防災情報は、防災マップで確認しよう!
小田原市防災マップは、津波の浸水予測・浸水深、地域の海抜ポイントの他、津波避難ビル(津波一時避難施設)・広域避難所など、防災情報が確認できます。
●小田原市ホームページで「防災マップ」のデータ公開URL: <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/disaster/disaster/nature/seismin/bousaimap.html>

津波による最大浸水深の確認は、神奈川県ホームページ、または、小田原市役所にお問い合わせください。

海抜は添付の「海抜マップ」か「防災マップ」等で確認しましょう。お近くに「海抜表示板」があれば、そちらも参考にしましょう。

マップに記載されている数字が「海抜」です。

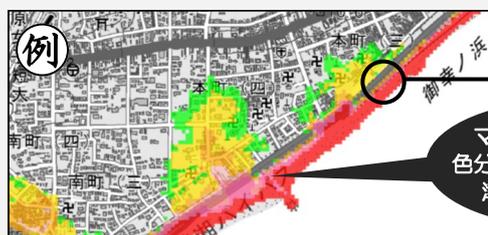


近所に海抜表示板があれば、そちらも参考にしましょう。

添付の「神奈川県津波浸水想定図」で自宅の場所を確認し、津波による浸水予測が「ある」か「ない」かを確認しましょう。

浸水予測がある場合はその浸水深を確認しましょう。

※津波浸水予測は、沿岸の該当地区にのみ資料添付いたします。



凡例の色で「浸水深」を確認しましょう。

マップ上にカラーで色分けされている部分が津波浸水予測です。

【凡例】

浸水深	
0.01m 以上 0.3m 未満	緑
0.3m 以上 1.0m 未満	黄緑
1.0m 以上 2.0m 未満	黄色
2.0m 以上 3.0m 未満	オレンジ
3.0m 以上 4.0m 未満	赤
4.0m 以上 5.0m 未満	赤
5.0m 以上 10.0m 未満	赤
10.0m 以上 20.0m 未満	紫
20.0m 以上	紫

